校長荒木規夫から保護者・生徒皆様へのメッセージ【不定期コラム№28】R4 6/15

「私の第一声⑯」

【不思議な縁と感動的な再会…？】

平成６年に大阪府の教員になり、貝塚市に赴任先が決まったことを母親に伝えた時、「不思議な縁やね」という反応。「何で？」と訊くと、「貝塚の駅の近くに産婦人科があってね、評判が良かったから、そこであんたを産んだんや」とのこと。自分の幼い頃の記憶は、熊取町から始まるため、熊取で生まれたと思いこんでいたので意外ではありましたが、当時は「そんなこともあるんやなあ」くらいの感想でした。

赴任先が貝塚二中だったので、家庭訪問などをしているうちに、JR東貝塚駅のすぐ近くに『三谷医院』という産婦人科の病院があることに気づきます。「もしかして」と思い、母にそのことを伝えると、「そうそう、その病院。顔にあざのある男のお医者さんに、あんたはとりあげてもらったんやで。まだ病院あるんやねえ。あんた、なかなかでてけえへんかって大変やったんよ。そうそう、義母が結婚前、背が低くて痩せてる私を見て、そんなんで子ども産めるんかと言われて腹立ってね…」と昔のことを思い出している母の話を聞き流しながら、「『三谷医院』という名前でまだあるということは、同じお医者さんがおるんかなあ。いや、子どもが後を継いでるのかも」と想像していました。

数年後、インフルエンザが大流行している年に、大事な仕事があるのに、発熱した時がありました。インフルエンザだったら生徒にうつすわけにいかないので、確認のため検査しにいくことになりました。前三中校長、現善兵衛ランド館長の井出先生に「前に、東貝塚駅前の三谷医院で検査してくれたことあったで」と教えてもらい、これは、長年の懸案が解決できるチャンスと、喜んで三谷医院に向かいました。

三谷医院に他の患者さんはいませんでした。受付に看護師姿の年配の女性が座っていたので、インフルエンザの検査をしてほしいと伝えました。すぐに診察室に呼ばれました。もちろん、体調が悪くてしんどいのですが、別の意味でドキドキしながら診察室に入りました。

年配の男性が白衣を着て座っていました。顔を観ました。母親の言っていたとおりのあざが顔にありました。30 年も前に、私をとりあげてくれたお医者さんがここにいらっしゃる！　しんどいのがどこかへいってしまうくらいの感動を覚えました。この感動を伝えなければ！

三谷先生は、私の鼻の孔に長い綿棒を突っ込み、粘膜をとりました。検査結果が出るまで、少し時間がかかります。本来なら、１度待合室に戻るタイミングなのでしょうが、他に患者は誰もいないのでその必要がないのでしょう。三谷先生は検査キットを眺めながら、「医者って、たくさんの患者と接するから、インフルエンザにもなりやすいと思うやろ？　ところが、自分は今まで一度もインフルエンザに罹ったことがないんや。予防接種もしたことない。長年患者とおったから、免疫できてんのかな。不思議なもんやろ？」とずっとお話をしてくれます。だから、感動的な再会の話をする隙がありません。

「この検査キットは印の出方でＡ型かＢ型かわかるんや。お、出てきたかな？」三谷先生は、じーっと検査キットを覗き込みます。その時、初めて三谷先生のお話が途切れました。このチャンスを逃してなるものか！「先生！　実は私、30 年前にここで生まれて、先生にとりあげてもらったんです！」と、感極まって伝えました。

「そう。…あ、Ｂ型やね。ほら、Ｂ型の印でてるやろ」三谷先生は、何事もなかったように、検査キットを私に見せてくれました。

私は肩透かしをくらい、インフルエンザであることを知って、急にしんどくなりました。後に三谷先生のお連れ合いさんだと知ることになる看護師姿の年配の女性から特効薬のタミフルを受け取り（この頃は、まだ病院で薬をもらえました）、ヨロヨロしながら帰宅しました。

よく考えれば、例えば３日に１回子どもが生まれる病院なら、年間 100 人、30 年で 3,000 人、私と同じ立場の人がいるのです。後日、私はインフルエンザの予防接種を三谷医院で受けるようになったので、三谷先生は笑いながら、よくあることだと教えてくれました。

もしかしたら、私も、私の教え子たちに、がっかりさせた場面があったのかもしれませんね。ごめんなさい。

【不定期コラム№29】へつづく

第三中学校ホームページ　では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/

貝塚第三中学校ＨＰ